

立命館大学国際平和ミュージアム貸出教材キットを利用した京都府立加悦谷高等学校での平和学習

授業者：松田宏（社会科教諭）

記録・報告：藤井あゆみ（学校図書館司書）

立命館大学国際平和ミュージアム貸出教材キットが本校に届き、平成 25 年 9 月 24 日（火）、9 月 30 日（月）に本校の松田教諭が、高校 1 年生の現代社会の平和学習で、図書館に展示したキットを生徒たちに紹介しました。

松田教諭は、キャラメルの箱が資源節約のために簡素化されていることや、とても壊れやすいつくりの将棋セットを紹介し、当時は資源が不足していたことを生徒たちに説明しました。また、数少ない娯楽の一つであった陣中占を生徒たちに説明すると、生徒も、その占いのためのしかけに興味を示していました。

また、十五年戦争とは、日本と中国が対戦していた期間であることや、慰問袋に描かれた旭日旗の説明をして、日の丸は日本の公式な国旗なので問題はないが、旭日旗は軍隊を思い起こさせるため、国際社会ではあまり歓迎されない場合があることも紹介しました。

図書館では、キットに合わせて『少年H』や、『さけ、わたつみのこえ』など戦争に関連した書籍も展示しました。松田教諭は、今年の夏に公開された映画『風立ちぬ』のゼロ型戦闘機について説明し、片道分の燃料だけ載せて飛び立っていった若者たちがいたことを紹介しました。また、シリアでの取材中に亡くなったジャーナリスト、山本美香さんの書籍『戦争を取材する』を取り上げ、まだ世界で戦争が続いていることを生徒たちに伝えました。

生徒たちは、図書館で松田教諭の話を聞きながら、貴重な慰問袋のキットを手にとりて見っていました。陣中占に興味をしめしていた以外にも、軍服は一回しか支給されないことや、通信手段が限られ、葉書なども検閲されていたことに驚いていた様子でした。

最後に、授業で生徒にキットを紹介していた風景を写真で紹介いたします。貴重な資料をお貸しく下さり、ありがとうございました。

